岩手大学
キャンパスマップ

- 理工学部
- 教育学部
- 人文社会学科部
- 農学部

1. 正門
2. 本部棟
3. 図書館・放送大学岩手学習センター
4. 中央学生食堂
5. 第一体育館
6. 第二体育館
7. 自然観察園
8. 学生センター
9. 学生寮
10. 農学部附属農業教育資料館

詳しい
キャンパスマップについては
下記QRコード
「岩手大学ホームページ」を
ご覧ください。

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8
https://www.iwate-u.ac.jp/

岩手大学
ホームページ

岩手大学
X

岩手大学
Youtubeチャンネル

盛岡駅からのアクセス

[バスをご利用の場合]
岩手県交通 駅上田線 または 駅桜台団地線
「一高前」バス停下車

[タクシー・車をご利用の場合]
盛岡駅から約2km

[徒歩の場合]
盛岡駅から約2km（約25分）

令和6年 3月発行

自然と歴史の息吹を感じる植物園

岩手大学
植物園ガイドブック

岩手大学

植物園について

岩手大学の前身である盛岡高等農林学校の創立（１９０２年）以来、長い年月を経て、盛岡市内では稀少な高木樹林の緑地を形成しています。その中で、横に広がって美姿の“山辺の松”、どっしりとそびえる“目時の杉・ひば”は、いずれも南部藩家老屋敷の頃からの古い時代のものです。この植物園の大きな特徴の一つとして、多数の植物種に占める外国原産樹木の比率の高いことがあげられます。

また、園内には重要文化財に指定されている、農学部附属農業教育資料館（旧盛岡高等農林学校本館）、盛岡高等農林学校時代の旧門番所、旧正門など、明治時代の学校の建築文化にとって価値のある建物が点在しています。

植物園から見た岩手大学全景
（中央：農業教育資料館（重要文化財））

旧門番所（重要文化財）

旧正門（重要文化財）

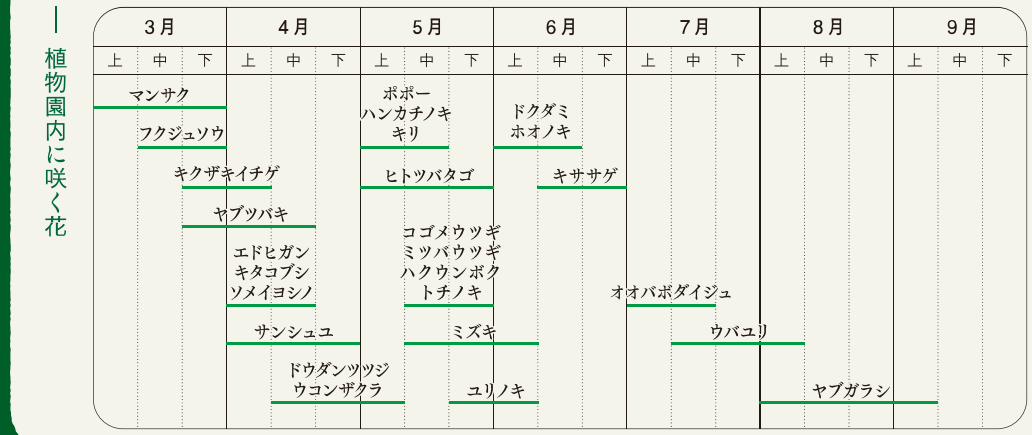
植物園内に咲く花

キクザキイチゲ

ポポー

クロッカス

ヤマツツジ



植物園内で観察される動物類

カルガモ

チョウトンボ

シジュウカラ

カラスアゲハ

春

（鳥類）
ウグイス・ヤブサメ・メジロ・コムクドリ など

（昆虫類）
ウスバシロチョウ・シオヤトンボ など

（両生類・爬虫類）
ヒキガエル など

夏

（鳥類）
カワセミ・キビタキ・オオルリ
クロツグミ・チゴハヤブサ など

（昆虫類）
チョウトンボ、カラスアゲハ、
アカスジキンカメムシ、コクワガタ、
ヒグラシ など

通年

（鳥類）
カルガモ
ハシボソガラス
ハシブトガラス
シジュウカラ
ヒヨドリ
コゲラ
スズメ
ハクセキレイ
など

秋

（鳥類）
モズ・カケス・ムクドリ など

（昆虫類）
コオロギ類・アキアカネ
ツチハンミョウ など

冬

（鳥類）
ツグミ・ジョウビタキ・アトリ
ベニマシコ・シメ・オナガ など

（昆虫類）
フユシャク類 など

植 物

1 ハンカチノキ（ミズキ科）
中国原産。白く花弁に見える部分は苞葉。

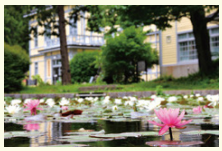
2 ポポー（バンレイシ科）
北米原産で外見がアケビに似た甘い果実を蓄ける。

3 フクジュソウ（キンポウゲ科）
福寿草。春を告げる花の代表。

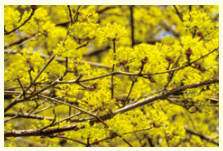
4 ハクウンボク（エゴノキ科）
白雲木。鈴なりの白い花を白雲に見立てたことに由来。

5 ヤブツバキ（ツバキ科）
常緑亜高木。岩手県では三陸海岸沿いに点在して分布。

6 エドヒガン（バラ科）
江戸彼岸。日本に自生する野生種の一つ。



7 スイレン（スイレン科）
広く世界中に分布し、さまざまな種が観賞用に栽培されています。



8 サンシュユ（ミズキ科）
中国原産。春先に葉が出る前に黄色い花を咲かせる。

9 ヒトツバタゴ（モクセイ科）
別名ナンジャモンジャノキ。対馬、木曽川周辺、愛知県に隔離分布。

10 ウコンザクラ（バラ科）
オオシマザクラ起源の栽培品種。名前は花弁の色が鬱金色に由来。

珍しい植物

■岩手県が南限分布地のもの
ヒメカユウ

■岩手県が北限分布地のもの
カヤ、モミ、ヒメグルミ、イヌシデ、ヤブサンザシ、ニガイチゴ、ミヤマニガイチゴ、オオバアサガラなど

■岩手県が固有の産地のもの
シダレカツラ、モリオカシダレ（サクラ）

■西日本が分布地のもの
ヤマコウバシ、ナツツバキ、アオギリ、モクゲンジ、アキニレ、ウバメガシなど

■外国原産種
チョウセンモミ、ブンゲンストウヒ、モンタナマツ、バンクスマツ、ストローブマツ、メタセコイヤ、ラクウショウ、ニオイヒバ、コノデガシワ、クログルミ、カシグルミ、シナサワグルミ、オウシュウシラカバ、ユリノキ、アメリカスズカケノキ、エンジュ、シンジュ、コブカエデ、セイヨウシナノキ、サンシュユなど

園内マップ

この植物園の面積は49,500㎡、137科530属800余種の植物が生育しています。特に国内最大級の外国樹種の巨木群はみごとです。植物園は研究試料の提供と学生の教育研究の場として利用されているほか、市民にも開放され地域の皆様の憩いの場となっています。藩政時代この植物園の一帯には南部藩の武家屋敷が建ち並んでいました。今でも南部諸士の庭園のなごりが園内の随所にうかがえます。

施設・モニュメント

1 農業教育資料館（重要文化財）

我が国最初の高等農林学校である盛岡高等農林学校の本館として、大正元（1912）年に建てられました。青森ヒバを用いた明治後期を代表する木造二階建ての欧風建築物です。当時学校の本部として、一階は校長室、事務室、会議室に、二階は大講堂として諸学校行事に昭和49（1974）年まで使われていました。明治期に設置された国立専門学校の中心施設で、現存する数少ない遺構のひとつであり、改造が少なく保存状態も良好であったことから、国の重要文化財の指定を受けました。

2 旧正門（重要文化財）

高等農林学校の本館鍵工［大正元（1912）年］に伴い、本館西側の河岸段丘上台と下台の間に取り付け道路を築き、造られました。門の内側には大正9（1920）年に並木の始点として植栽されたユリの木の巨木があり、かつてはユリノキの並木があったことを伝えています。

3 旧門番所（重要文化財）

明治36（1903）年、盛岡高等農林学校正門（現在の通用門）に建てられた門番所（守衛所）です。文部省が設計した寄せ棟風八角の造りで、建築文化にとって価値ある明治期の「門番所」を語り伝えています。本館（現在の農業教育資料館）の完成に伴って大正元（1912）年に現在の位置に移設されました。

4 ガラス温室（森の駅ボランハウス）

前身となる旧高等農林学校のガラス温室は大正14（1925）年に完成し、当時は東北一の規模を誇り、冬でもバナナ・ゴム・パイナップルが常緑葉を光らせ、県民の参観の場となっていました。

5 自啓寮跡

自啓寮は明治36（1903）年の盛岡高等農林学校の開校と同時に設立されました。寮は木造二階建ての宿舎が二棟建っており、南寮、北寮と呼ばれていました。宮沢賢治は、大正4（1915）年に首席で入学し自啓寮の南寮の一室で、大正6（1917）年4月までの二年余を過ごしています。

樹 木

1 侍屋敷町、山邊のマツ

藩政時代この界隈には、総檜づくりで回り縁側や高級な床の間のついた大きな家々が建ち、丹精こめた庭を配していました。当家の庭園は、ひと際みごとだったのでしょう。現存するゴヨウマツ老大樹の伏臥姿に、当時が偲ばれます。

2 賢治の詠んだヒノキ

年わかき　ひのきゆらげば日もうたひ　碧きそらよりふれる綿ゆき（歌稿大正六年一月より）
盛岡の冬はヒノキにとっては厳しく、林業では岩手以北はヒノキの育たない地方と言われています。幸い、賢治の詠んだ若きヒノキは、百年の星霜を経てみごと大成木となっています。

主な樹木

巨木群（外国樹種）
- Ⓐ ユリノキ（北アメリカ原産）
- Ⓑ シナサワグルミ（中国原産）
- Ⓒ アメリカスズカケノキ（北アメリカ原産）
- Ⓓ ラクウショウ（北アメリカ原産）
- Ⓔ イチョウ（中国産）
- Ⓕ テウチグルミ

巨木群（日本特産種）
- Ⓖ モミ
- Ⓗ サワグルミ

宮澤賢治の詩に詠まれた木
- Ⓘ ハクウンボク
- Ⓚ カリン
- Ⓙ ブナ
- Ⓛ ドイツトウヒ

当大学卒業生三木茂により命名された木
- Ⓜ メタセコイア

藩政時代の庭園跡の松の木
- Ⓝ ヒメコマツ

初代盛岡市長邸跡地の木
- Ⓞ 目時家のカキの木
- Ⓟ サワラ

その他
- Ⓠ ハンカチノキ
- Ⓡ ウコンザクラ
- Ⓢ カツラ
- Ⓣ ケンポナシ
- Ⓤ キハダ
- Ⓥ ケヤキ
- Ⓦ ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）
- Ⓧ トチノキ
- Ⓨ サイカチ
- Ⓩ チョウセンモミノキ
- ⓐ クログルミ
- ⓑ スギ
- ⓒ クヌギ
- ⓓ スズカケノキ
- ⓔ ヒマラヤスギ
- ⓕ ツガ
- ⓖ ストローブマツ